

2026年度(令和7年度)事業方針及び計画

(2026年4月1日～2027年3月31日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

2026年度は、新しくリニューアルしたこまちカフェとこよりどうカフェの2つの居場所を通して更に多様な世代で子育てを応援する場づくりに挑戦する。更に「まちで子育て」という状態に近づいていかれるよう「場から道へ」をテーマにこまちカフェの入る建物の道沿いの空間を活用しながら、まちのなかでの自然な出会いと交流を生み出すような挑戦を実践する。また、「こどもとおとなの学校」や新たに始まる「とつか未来づくりプロジェクト」などを通して障害の有無、登校・不登校の状況、家庭環境に左右されることなく、すべての子どもや大人が「自分の興味・関心」を探求できる継続的な機会をつくり、活躍できるような機会をつくっていく。また、10周年を迎えるウェルカムベビープロジェクトにおいては、出産祝いをつくり届ける過程で多くの方が更に関わり、子育て中の人たちが孤立しないような環境づくりをし、各支部との連携を深めながら赤ちゃんウェルカムな社会がひろがるように取り組みを更に推進する。こまちパートナーの方など様々な方々とこれらのチャレンジを続けられるよう、育成や体制の強化、新しい公益信託等の新たな財源の確保につとめる。最後に、居場所をこれからつくろうとしている人たちが、それぞれのチャレンジをしやすくなる社会になるよう、学びあいの場づくりや研究、提言等を行っていく。

<事業内容>

I 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集し、ネット上に毎月100～200件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【2026年度の取り組み】

2026年度も引き続き、チラシの内容を随時入力し、Web上で閲覧できる状態を維持していく。本年度はさらなる効率化と作業のしやすさを目指し、これまでに作成した施設リストやマニュアルの定着を図る。また、チェック作業を担うこまちパートナーを増やし、責任のある業務を通じてやりがいを感じてもらえる体制を整える。あわせて、こまちパートナー同士が互いに相談し、協力しながら業務を進められるようにオンライン上での雰囲気づくりを支援していく。引き続き「関わりやすさ」を重視し、一人ひとりのライフスタイルに合わせた依頼ができるよう、随時コミュニケーションを重ねていく。また、今年度もリアルに集まれる場を設けることで、こまちパートナー同士の繋がりを深め、活動への意欲を高める機会としたい。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員：11名
- ・受益対象者：区内外の親子中心に、のべ15,000名程度
- ・支出額：294,458円

2. とつかの子育て応援ルームとことこ情報スペース運営事業

- ・内容：【概要】年間約1万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設において、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1人の情報コンシェルジュが常駐し、月間100件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【2026 年度取り組み】

2026 年度も引き続き気軽に立ち寄れる場所として、区や地域子育て支援拠点としての芽と連携しながらとこの周知に努める。今年度は、子育て中の保護者支援にかかわる方から傾聴スキルを学び、スタッフの傾聴力を高め、より安心して来所できる環境づくりを目指していく。また年度後半までに、子育て情報紙ゆめの「忙しい日の夕飯、どうしてる？」を元に、「忙しい日こそ家族が無理をせずに続けられる方法」を掲示し、家族で食事を囲む時間の工夫の情報提供をしていく。とことこの外ラックに配架されているチラシの整理、分類を行い利用者が必要な情報を見つけやすく手に取りやすいように環境整備を行う。さらに区が毎月発信する X 投稿では、区政推進課の協力を得ながらとことこ紹介や地域情報の発信からとことこを知らない方へのアプローチを引き続き行う。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
- ・従事者人員：4 名
- ・受益対象者：区内外の親子中心に、のべ 10,000 名程度
- ・支出：2,233,924 円

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

1. こまちカフェ

- ・内容：【概要】日祝日を除く毎日(月曜日～土曜日)戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベント企画を通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけや気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつくっている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場をつくっている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【2026 年度取り組み】

4 月のリニューアルオープンを機に、これまでの「見守りさんのいるカフェ」「アレルギーのある子もいない子ども同じテーブルで食事ができる」というコンセプトも大事にしながら、より多世代が自然に交わり、共に学び合える場としての進化を目指す。

空間面では、新たなコンセプトの世界観を作り、親子が安心して過ごせる座敷に加え、ご高齢の方や足の不自由な方も快適に利用できる昇降式テーブルを導入するなど、多世代で集える環境整備を推進。併せて「こどもとおとなの学校」のコンテンツを一層充実させ、カフェ全体でこの学びの場を盛り上げていくことを大きな柱に据える。ここでは地域の方、ボランティア、そして子ども達が主役となって参加できる機会を積極的に創出し、多世代が互いの個性を尊重し合える豊かなコミュニティを育くむ。

また、1 階の珈琲スタンドやウッドデッキを拠点に、商店会の他店舗と協力をあうことで、通り全体の賑わいと地域住民が集う仕組みの構築を目指す。新メニュー「夜明けを待つカレー」にちなんだ物語性のあるイベントや、こまちパートナーの「やりたい」を形にする活動を通じ、訪れるたびにリフレッシュできる空間を作り上げる。

内部体制においては、新体制の定着と仕組み化を徹底し、誰もが動きやすく働きがいを感じられる組織づくりを継続する。同時に、全国からの視察対応を通じて、「居場所づくり」の知見を広く共有し、他地域でもカフェ型居場所が広がるよう、体制のブラッシュアップと仕組みの構築を並行して行い。地域に根ざしながら、社会に開かれた拠点として歩みを進めていく。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：11 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 7,200 名程度
- ・支出：11,272,204 円

2. こよりどうカフェ

- ・内容：【概要】「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内にオープン。こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指す。利用者のみならず運営に携わるボランティアも年齢や障がいの有無を問わず様々な方が関われる場として運営。2026年度より祝日を除く毎日（月曜日～日曜日）にて、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携も進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に足を運び過ごすことが難しい方々との接点を作ることに取り組む。

【2026年度取り組み】

2026年度は副店長2名が店長の役割を分担・代行する「新体制」へと移行し、現場の組織力を強化する。姉妹店「こまちカフェ」との密な連携により、日々の業務を円滑に進行させるとともに、現場での迅速な判断と対応を徹底する。さらに、姉妹店の調理を担うセントラルキッチンとしての機能を強化し、日々の業務調整やオペレーションの最適化を図ることで、常に安定した品質で提供できる製造体制を整備を行う。スタッフ一人ひとりがその力を存分に発揮できる環境を整え、お客様が心から一息つける「こよりどうカフェ」らしい空間を共に作り上げる。

新たに日曜日営業を開始することで、平日にご来店が難しいお仕事をお持ちの方々が来店できるよう、より幅広い層に「こよりどうカフェ」での時間を過ごしていただけるよう工夫する等、「多様な人々との関わり」と「地域連携」をさらに深化させる。多言語対応や、アレルギー・宗教・国籍に配慮したメニュー展開、世界中の調味料を取り入れた野菜中心の料理を通して、あらゆる背景を持つ方が安心して過ごせる場を創造。5月の「台湾」を皮切りにスタートする新企画「世界の旅茶時間」では、食と音楽を通じて日常の中に旅をするような豊かなひとときを提供する。

さらに、学生からシニアまでがそれぞれの強みを活かして活躍できるボランティア・就労支援の場を継続し、多世代が主役となれる店舗づくりを推進する。地域社会に対しては、オンラインやチラシを活用したテイクアウト事業の周知を強化し、子育て世帯から一人暮らしの高齢者まで幅広い方々へ「食」と「居場所」を届ける。金曜夕方の「terabaru」や保育園への惣菜お届け事業を通じ、子育て中の日常に寄り添い、家事の負担を軽減する一助となるよう、引き続き取り組む。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区矢部町
- ・従事者人員：20名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ10,000名程度
- ・支出：21,142,684円

3. お菓子部門

- ・内容：【概要】「こまちカフェ」内のお菓子工房において、主にクッキーやケーキなどの焼き菓子を製造し、「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」両店舗の店頭のほか、オンラインショップや外部イベント等にて販売。地域の幼稚園・保育園や企業・団体からの受注にも対応する。

小麦・卵・乳製品を使わず、アレルギーのある方もない方も一緒に食べることのできる「心とからだにやさしいお菓子」が「気持ちを伝える」手段のひとつとなるよう、お客様にお届けする。

カフェへの来店動機を作るとともに、カフェに足を運ばない方にも配送を通じてつながる機会を創出する。製造工程や作業を分担したり、イベント販売に参加したりすることで、ボランティアやインターンの方、地域の方など多くの人が様々な形で関わりやすい場となるよう取り組む。

【2026年度取り組み】

品質・製造量の安定化を図るため、分かりやすい作業マニュアルやリストなどの資料作成や環境の整備に努めるとともに、衛生管理や表示義務などにも留意し、おいしく安心して食べられるお菓子作りに取り組む。

SNSを活用した販促の充実を図り、お菓子の魅力をより多くの人に伝えていく。特に新しい菓子やデザート、米粉パンを使ったレシピを開発し、より多くの方に足を運んでもらえるよう、カフェの魅力のひとつと

して発信していきたい。また、戸塚の魅力をクッキー缶に表現した「とつか缶」クッキーの開発も予定している。

こまちパートナーやインターンの方の関わりをさらに増やし、カフェ内や地域のイベントとの連携を図り、お菓子部門の役割を意識しながら取り組む。地域の企業や店舗、学校とのコラボ企画、フードロス対策、「こどもとおとなの学校」の講座など、お菓子から広がる新たな可能性も模索していきたい。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：区内外の一般市民のべ2,500名程度
- ・支出：4,655,447円

4. 参加のデザイン

- ・内容：【概要】「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」を中心としたこまちぷらすの活動において様々な関わりがうまれるよう、パートナー参加のきっかけ作りを行う。

【2026年度取り組み】

各事業において、より一層参加の機会を意識して取り組んでいく。今年度もパートナー登録会担当者を増やしていき、日々の関わりの投げかけを行う部門担当者を増やすと同時に、関わりがうまれる居場所の意味や声掛けや投げかけで大事にしたいことの研修や情報共有を行っていく。

また、パートナー自身が「好きなこと、得意なこと」を見つけながら「こどもとおとなの学校」に関われる機会が増えるよう実施していく。さらに、パートナー同士の交流や学びの機会として、「パートナーぷらす会」を年に2回実施予定。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：区内外の一般市民のべ100名程度
- ・支出：222,258円

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」（発達障がいをもつ子どもの親を対象に情報発信・イベント実施）

- ・内容：【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【2026年度取り組み】

2026年度も、お話会と勉強会を交互に開催。勉強会では、毎年恒例の公認心理師による勉強会と発達障害や不登校児のための個別学習ルーム R'sroom の先生による勉強会を開催。お子さんの進路について悩む方が多いので、進路についての勉強会も開催予定。ランチ交流会もこまちカフェ、こよりどうカフェ、両方で行う。

- ・日時：4月3日、5月1日、6月5日、7月3日、8月7日、9月4日、10月2日、11月6日、12月4日
1月8日、2月5日、3月5日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ100名程度
- ・支出：92,088円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

(子育てと介護を同時に抱える家庭や親の介護等について関心がある家庭向けの事業)

- ・内容：【概要】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや、自身の思いを話し合える場をつくる。

【2026年度取り組み】

2026年度も「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指して活動する。対象となる方々のニーズに対応した企画も含めて、ダブルケアの方が必要な情報に出会い、思いを話し合い聞きあえるようなきっかけとなるテーマを取り入れ開催する。また、講演会の実施や SNS の活用により、広くダブルケアについての情報発信をする機会も設ける他、当事者の声を可視化したツール(三枚の葉っぱ)についても、新たに声を集めて作成することも検討したい。

- ・日時：通年 月 1 回実施
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：子育て中の親、介護中の方、高齢者、支援者等、のべ 40 名程度
- ・支出：125,173 円

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」

(不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業)

- ・内容：【概要】月 1 回金曜日又は土曜日に、不登校ひきこもり児童・生徒(学齢期)の家族の方がお互いの今の心情を安心して話すことができる場を提供。

【2026年度取り組み】

2026年度も引き続きお互いの気持ちを共有したり、情報を得たりすることで、自信と元気を取り戻していただける場を提供する。また、SNS 発信に力を入れ、様々な情報などを届けることで安心していただいたり、家から出られない親子の外出機会をつくる。市内で親の会を主催している支援者団体「はまおやネット」のネットワークの会や、区内のネットワークの会「ポンテ」にも参加し、地域との連携を深めながら実施する。

- ・日時：4 月 24 日、5 月 22 日、6 月 27 日、7 月 24 日、8 月 28 日、9 月 26 日、10 月 23 日、11 月 27 日、12 月 26 日、1 月 22 日、2 月 26 日、3 月 27 日(10:00～12:00 又は 15:30～17:30)
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：1 名
- ・受益対象者：不登校の児童の親、支援者等のべ 100 名程度
- ・支出：137,788 円

4. 「ただい間のおうち」(不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている学齢期児童・生徒の家族向け事業)

- ・内容：【概要】月 1 回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て家族以外の第三者と交流できる場を提供。

【2026年度取り組み】

子どもが外に出る第一歩として安心して過ごせる場所を提供する。この場所で自信を取り戻し、次の一歩に進めるよう子どもたちの気持ちや行動に寄り添うことができる場とする。地域の関係機関や、地域の方々、不登校経験者の方など、様々な方に関わっていただけるよう連携を深めながら実施する。

- ・日時：4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 17 日、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、11 月 20 日、12 月 18 日、1 月 15 日、2 月 19 日、3 月 19 日(17:30～19:00)
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2 名
- ・受益対象者：不登校の児童の親、支援者等のべ 150 名程度
- ・支出：215,566 円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェ・こよりどうカフェにて、レンタルスペースの貸出を通して起業支援や情報発信の支援、人と人との交流の場の提供を実施。

【2026 年度取り組み】

こまちカフェ・こよりどうカフェで、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、イベントを開催、また特技や資格を活かしてチャレンジする機会としてレンタルスペースの貸出も行う。

- ・こまちカフェ：平日午後レンタルスペースをご利用いただくため、新年度より、15時以降のレンタル時間を50分毎にし、利用料を引き下げる。チラシやSNS等を通じて、利用方法を広めていきたい。方法の1つとして「こどもとおとなの学校」のイベント開催を増やしていく。

毎月発行しているイベントカレンダーチラシは、こまちカフェに足を運んだことのない方にも手に取って頂けるような紙面づくりを心がける。小学生以上のお子さんやシニアの方が「自分が参加できるイベントがある」と知っていただけるよう、イベントを3つのカテゴリーに分けて掲載する。こまちカフェスタッフ主催の様々な取り組みについても引き続き紹介していきたい。

レンタル時間の変更やカフェのリニューアルについて、以前ご契約いただいていた方等にお知らせし、再びこまちカフェとのつながりを持っていただけるようアプローチしていきたい。

- ・こよりどうカフェ：今年度も引き続き、定期利用の契約者様を増やすとともに、次年度へ契約を継続していただけるよう働きかけていく。カフェタイムにふらりと立ち寄れるようなイベントも今後定期的で開催していく。新たな取り組みとして「世界の旅茶時間」や、子供が参加できる夏休みの企画などもカフェと連動した企画として実施していく）チラシとあわせて昨年度開設したSNSも活用し、情報発信に取り組んでいく。

- ・全体：昨年度開催したイベント主催者様同士の交流会を引き続き実施。主催者様のご意見をヒアリングとともに、こまちカフェ・こよりどうカフェの相互利用をより促進していきたい。

- ・日時：通年

- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

- ・従事者人員：6名

- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,000名程度（オンライン参加者を除く）

- ・支出：2,026,216円

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ(常時)・こよりどうカフェ(随時)内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった「手づくり雑貨」を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方や事情により外出が難しい方の得意が生きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方（自宅にいながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【2026 年度取り組み】引き続き、年間を通してこまちカフェでの手づくり雑貨展示販売を行い、近隣の方のみならず、遠方の方・家庭やご自身の事情で外出が難しい方や、退職等で社会との関係を求めている方にとっても、特技が活かせる場・社会とのつながりを感じられる場となるよう努める。4月からカフェ部門兼任スタッフが担当になったことで、よりカフェ部門との連携をとりながらこれまでになかった運営方法を模索していく。季節ごとの定期的なハンドメイド即売会の開催、契約者同士の交流会や、学齢期の子どもが参加できる場・楽しめる場の創出にも力を入れていく。

また、さらに契約者同士の関りが気軽にもてるような仕組みを作り、委託販売だけにとどまらない価値が生まれるような居場所づくりを目指す。

- ・日時：通年

- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ1,500名程度
- ・支出：967,350円

V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018年から横浜市鶴見区、2020年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022年には茅ヶ崎市、2025年には川崎市川崎区でも支部が立ち上げられた。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いには選考会にて4人の選考委員により認定されたプレゼントが入っており、申し込みがある世帯へ無料でお贈りしている。（選考会実施は横浜市戸塚区・鶴見区）このプロジェクトは民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）を主として運営しており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。

【2026年度取り組み】

[戸塚支部]

○出産祝い部門

戸塚区内の子育て支援関係施設、地域ケアプラザ等、また、支援してくださるパートナー・タウンサポーターの方々と連携し、広報活動に力を入れ、出産祝いの受け取り地域や数が増えるよう努める。また、出産祝いを一緒に作ってくださるプレゼントパートナー10社、協賛・サプライパートナー企業約25社と交流を深め、連携しながら「ウェルカムベビーなまち・社会」に向けて、一緒に取り組んでいただけるように努めるとともに、出産祝いを受け取られた方の声を丁寧に拾い、パートナー各社とも共有をしながら出産祝いのお届けを継続する。そして、「背守り」づくりや「巾着おくりプロジェクト」を通じて、地域の多世代の方や出産祝いを受けとられた方に参加いただくことで、地域交流とプロジェクトへ関わる機会を創出する。

○産前・産後部門

産後の母親が気軽に足を運びゆるやかにつながれる機会として、こまちカフェでのおしゃべり会「ゆるっとママカフェ」を月1回程度開催予定。また、2025年度に引き続き「ママ・パパ会」を実施し、前年度の開催方法や活動を参考にしながら、より参加しやすく、ママとパパ同士のつながりや地域とのつながりが生まれるよう実施していく。

○タウンサポーター/ナッピーデー

赤ちゃん連れでまちに出かけやすい場所が増えていくよう、引き続き登録店舗とのコミュニケーションをとりながら「タウンサポーター」の認知度向上に力を入れる。その一つとして、各店舗を訪問した際、赤ちゃん連れのご家庭へのサポートや利用のしやすさの工夫について伺い、プロジェクト SNS 等を通じて広報を行う。

[本部]

○支部連携・支部展開

鶴見支部、松戸支部、茅ヶ崎支部、川崎区支部との連携と支部間の交流や情報交換に力を入れていく。また、支部の活動が財政的にも継続可能なものとなるよう、情報共有や仕組みづくりについても力を入れる。また、新たにプロジェクト実施について関心のある方に、プロジェクトの概要や立ち上げの説明を行う。

○パートナー企業・団体との協働

引き続き、プロジェクトを支援いただく協賛のみならず、様々な形で多様な業種の方々にとって「ウェルカムベビーなまち」を目指すことが身近になるよう連携を進めていく。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国

- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：戸塚区で生まれた赤ちゃん約650人とそのご家庭の方、一般市民等のべ300名程度、計のべ950名程度
- ・支出：4,620,240円

2. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】約120会員からなる戸塚の商店会の事務局をつとめる。「こども・高齢者・障がいをもった人も誇りと居場所と出番を感じられる地域」を商店会としてビジョンを持ち、こまちぷらすとしてもその事務局機能を担いながら商店と子育てしやすい環境について考え提案をしていく。

【2026年度の取り組み】

今年度もイベントを通して会員同士をはじめ地域にお住まいの方・在勤の方・学生・会員の顧客やこまちカフェに足を運ばれる方にもお声かけし、交流と参加の機会をつくる。また、商店会を身近に感じ、公式LINEを通じて関わりたくなるような情報発信、店主の人柄やお店の魅力発信に力を入れていく。こどもとおとなの学校やこどもまち冒険、ウェルカムベビープロジェクトなど他事業と連携し、子育て中の親子、学齢期のこども達が商店会の店主中心にイベントを開催、協力しながらまちの大人と出会い関わる機会を創出する。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：120名
- ・支出：2,006,065

3. こまちスクール(こどもとおとなの学校・こどもまち冒険)

- ・内容：【概要】障害の有無、登校・不登校の状況、家庭環境に左右されることなく、すべての子どもたちが「自分の興味・関心」を探求できる継続的な機会を提供する。放課後の時間、地域の大人の知恵に触れ、主体的な「知る・発想する・つくる」というプロセスを経験。失敗を恐れずに「トライ&エラー」ができる安心安全な居場所を構築するとともに、成果を街中で発表することで地域社会との豊かな場を創出する。

【2026年度の取り組み】

2026年度は、昨年度に築いた土台をさらに発展させ、「こまちカフェ」と「まち」を舞台にした「こどもとおとなの学校」の運営に一層注力する。こどもたちの「なんだろう?」「もっと知りたい!」という純粋な好奇心を出発点に、多様なおとなたちと出会い、共に学び、自分たちの手で何かを実現していく過程を大切に作る場とする。

2026年度は特に、こどもたちがより主体的に関わりたいと思えるコンテンツの充実に重きを置く。具体的には、手芸や刺繍、段ボールクラフトといった「表現」の活動から、スイーツやパン、ごはん作りを深める「食」の探求、さらにカリンバやウクレレといった「音楽」教室まで、五感を刺激する多彩なプログラムを展開予定。加えて、起業に関心のある子や表現の幅を広げたい子向けに、Canvaを用いたデザインやデジタルスキルの講座も実施し、自らのアイデアを社会で形にするための実践的な力を育む。

学びのフィールドはカフェの中にとどめず、地元商店会とも深く連携し、まち全体を舞台に「知りたいに出会う」「聞いて学ぶ」「まちの中で実現する」というサイクルを大切に進める。さらに秋には、学んできたことの集大成として「こども主体のマルシェ」を開催し、表現したものを社会に届ける喜びを分かち合う予定。

また、2026年度から新たな試みとして、学びを深めるための「奨学金制度」を導入予定。運営体制もスタッフ3名へと強化を図り、地域の方やこどもたち自身が「教える側」にも立つ仕組みを取り入れることで、こどももおとなも対等に育ち合う、活気あふれる学びのコミュニティを創造する。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：4名

- ・受益対象者：のべ 100 名程度
- ・支出：1,283,127 円

4. とつか未来づくりプロジェクト

- ・内容：【概要】地元の小規模事業者や商店が抱える「人手不足・コスト高で外注できない業務」と、地域の「働きたいけれど既存の枠組みでは働けない人材」をつなげるプラットフォーム事業。「業務の切り出し(タスク分解)と調整」及び「コミュニティづくり・伴走コーディネート」を組み合わせることで、安心・確実な業務遂行及び仕組を実現する。

【2026 年度の取り組み】

事業開始初年度となる 2026 年度は、既にいただいている案件をもとに、安定した運営をすることを心掛け、依頼者受託者双方にとって有益かつ有意義な取り組みとなるよう素地をつくる。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：のべ 100 名程度
- ・支出：902,491 円

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。

【2026 年度の取り組み】

行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぶらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努める。2025 年度に引き続き、「カフェ型居場の展開」として、他地域や他団体に向けたカフェの運営についての実務講座等を実施する他、居場所が立ち上がりやすい、継続しやすい環境やサポートのあり方についての研究も進め、発信していく。さらに、居場所を作りたい事業者当事者のみならず、その事業者を支える中間支援団体や関心のある民間企業への働きかけも行い、日本中に「心地よい関わりのある居場所」が増えていくよう努める。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：500 名
- ・支出：6,293,278 円

2. カフェから街中の日常空間へ展開する偶然の交流の仕掛けづくり

内容【概要】戸塚寄り道計画（仮）

今年度の新たな取り組みとして、人々が自然と出会い交流する空間をカフェの中から道（敷地内外空間）へと展開することで、まちで子育てのビジョンを更にまちの方々と共有し実践していく。具体的にはアーティストの力を借りながら、目的がなくても訪れたい場をつくり、人と話し少し関わり偶然的な出来事が生まれるような仕掛けを日常の中に仕掛け、自然な交流が生まれるような空間をつくっていく。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：4 名
- ・受益対象者：500 名
- ・支出：2,400,000 円